

神戸のお嬢さん

Mademoiselle de Kōbe

育ちのよさが
感じられる、
明るく暖かい性格

千頭加奈子さん
(大阪音楽大学 打楽器専攻)



三歳からピアノとマリンバを習い始めた千頭加奈子さんは、神戸山手女子高校の音楽科を経て、現在大阪音楽大学打楽器専攻に在籍。いつも周りの人を楽しく幸せな気持ちにさせ、誰からも好かれる好感度ナンバーワンのお嬢さんだ。マリンバだけでなく色々な打楽器の勉強をしていきたいと夢を語る加奈子さんは、ラテン音楽にも強い興味を示し、マルチ打楽器奏者として将来が期待される。好みのタイプは優しくて思いやりのある男性。現在恋人募集中とか。



推薦者
作曲家
矢野 正文

(神戸メリケンパークオリエンタルホテル チャペル マリンホールにて)

神戸のお嬢さん

ミントの薰りがする
清爽で心優しい
お嬢さん

安田亞里沙さん
(銀泉株式会社営業)

爽やかなという形容詞は、安田亞里沙さんの為にあるかのようです。何事に対しても力む事もなく、さらりとやってしまいます。愛徳学園から神戸山手短大に進まれ、OLさんになられるまでマリンバのレッスンに通つてこられました。神戸まつりにKOBECOサンバチームで目を見張るようなコスチュームで楽しげに踊つていのを見て、また、大勢の熱い亞里沙ファンがおられることを知つて、日頃のお嬢さんらしい彼女と違う面に大変驚いた次第です。



推薦者 宮本 慶子
神戸マリンバソサエティ代表・
マリンバ演奏家



インテリアも秋色に、私の
気に入りの陶器やピューター
も、部屋に季節の変化をもたら
してくれます。個性豊かな
アーティストたちがデザイン
した日用雑貨は、ニューヨー

長かった夏の日差しもやつ
と落ちつき、やさしい秋の光
に包まれてほつとしています。
温かい飲み物に安らぎを感じ
るのは、身も心も自然の節理
に従順だからでしょうか。



'95ウィスコンシン州クレメンス教授の庭園にて
きむら たえこ <ライフクリエーター>
グラフィックデザイナー、インテリアデザイナーの
仕事を離れ、'76～'80ロサンゼルス滞在。'80～
'92芦屋大丸ライコーディネーター。'92～'94ミ
ネソタ大学ESL留学。'03梅花短期大学インテリ
ア特別講座講師。'04大阪ガスインテリアスクー
ル特別講師。
写真/木村多恵子

木村多恵子の 暮らしのエスプリ<9月>

— 親愛なるあなたに —

Dear Friends

庭でたくさん咲いたアナベル
ルも白から緑に変化するとき、
秋の私のインテリアのエレメ
ントをなしてくれます。

「木を見に行きませんか」と
新しく庭を作るというあなた
からお誘いを戴いたのは、
まだ暑さの残る、日差しの強
い日のことでした。夏の間す
かり遠のいていた、山の散
歩を始めるよい機会になりました。

夏と秋の間

なんと静かな午後でしよう！



のめり込むように本を読みたい、そんな時間も戻ってきました。

クやサンフランシスコ、ミネアポリスなど私の行く先々で
求めた思い出の品々です。高
名なアーティストの品とは思
わないでください。しかしそ
れらは、私を高揚させた楽し
い買い物の品々です。

撮っています写真の蓋付き
陶器はニューヨークで求めた

女性アーティストのものでオ
リーブの実だということです。
飾つておくだけというのは好
みません。この蓋物の陶器は、
時には来客の持て成しのアン

トレに、ココットの器として
使います。それはエモーショ
ナルなテーブルとして楽しい
ものです。

まだ暑さの残る、日差しの強
い日のことでした。夏の間す
かり遠のいていた、山の散
歩を始めるよい機会になりました。



昨日の風で、緑色のドングリの実があちこちに落下していました。私はこの頃のドングリの実の美しさに心踊るのです。エイガーさんデザインのオリーブの実の蓋物と共に。

ゆるやかな勾配の下りの路
から見える林には、楓や松、
小柏、とねりこ、下方には山
茶が溢れんばかりに咲いてい
ました。木々の間をぬける風
はひんやりと涼しく、なんと
いう優しさでしょ。

私はここに、四季折々に会
いにくる木があります。そ
れは“落羽松”アメリカ南東
部産のスギ科の落葉針葉樹で、
50メートルにも成長する大木
です。芽ぶきの頃の春、淡い
緑色の細い葉を無数につけ、
萌えたつようなその姿は、息
をのむばかりの美しさです。

そんな美形ながら、他の木
が育たないような湿地でも、
地表に呼吸根を出して平気で
生きる変りもので、軽くて丈
夫なこの木は、鉄道の枕木や
桶、屋根板など用途の多い優
れものだそうです。

人は木からいろんな感慨や
恩恵をいただいて共生してい
かなければなりません。

私たちは腰を下ろして、稍
にわたる風の音や、緑の匂い
の中で、木について、庭につ
いて夢想しました。



パスカル ヴィレ

＜神戸国際調理製菓専門学校・製菓教授＞

一口マンチックなケーキ

南フランス・プロヴァンス出身。ママもパパも料理が上手、キュイジーヌではなくパティシエを選んだのは「ケーキの方が口マンチックだから」。17歳でパティシエの資格をとり、南アフリカのオーナーにスカウトされ、それから世界をまわる。イスラエル、トルコ、アイルランド、エジプト、ミコノス島、モーリス島…。あるときはホテル、レストラン、船の中など。日本に来てからも、さまざまなお店からひっぱりだこ。（株）エーデルワイスの比屋根会長とも親しい。そのうちに日本での生活が一番長くなつた。生徒には「見ること、匂い、テイスティング（味見）をする、タッチする（触る）」ことを大切に、といつも言つている。中でも「味」が一番大切だと。例えば温度や湿度で左右される調味料や粉の分量も、ほんの少しのまちがいも、テイスティングすればすぐに変化がわかる。「けれど味を学ぶには時間がかかるし、センスも必要」。昨年卒業した生徒の中には、神戸の有名パティスリーに就職した人もいた。「彼女にはセンスがあつた。彼女はずつとケーキのことばかり話していたんだ」。そんな出会いもあり、日本に来て初めて学校の先生になつたパスカル先生も「ずっと学校にいるのも良いかな」と考へていて。天ぷらや寿司など日本料理も自分で作つてしまふ、陽気な先生。

村岡沙雪

<デザイン事務所ライブワン／エッセンス理事>

好奇心いっぱいの
女性たちに

昨年秋、女性による女性のための清酒が発売され、大好評のうちに完売した。清酒を企画したのは、西宮の辰馬本家酒造営業本部企画広報グループと、女性たちが集まるサークル「エッセンス」のメンバー。村岡さんは「エッセンス」理事で、清酒の企画開発チームの中心となって活動した。「エッセンス」は、関西一円のOLや主婦などさまざまな業種の女性たちが会員となっている。例会では、カラーセラピー講座や税金を楽しく勉強する会、英会話などの講演会や見学会などが企画され、毎回多数の会員が集まるという。「仕事以外の知識を深めたい、体験を通じて自身を深めたい女性たちが多いんです」と村岡さん。その「エッセンス」の企画で酒蔵見学に行つた辰馬本家酒造で、女性による清酒づくりの企画を持ちかけられた。まず酒の歴史や水のことなどを学ぶことから始め、味はもちろん、パッケージや名前などでも斬新な意見を次々に出し、酒造元もできる限りその意見を取り入れた。

村岡さんの本業はグラフィックデザインや商品企画（企業が顧客にプレゼンントする商品を企画、提案すること）。雑貨屋やデパートなどのウインドウショッピングならぬマーケットリサーチが仕事であり、データバンクは、頭の中とメモ帳、彼女の感性の中である。

「エッセンス」と辰馬本家酒造が企画した清酒は、
今秋も限定発売が決定。詳しくは87ページで。





●ある集い●兵庫県日韓親善協会



左より吉田泰巳氏、初田寿氏、李壽英氏と
司会の橋本理事

■お問い合わせ

兵庫県日韓親善協会
神戸市中央区東川崎町1-1-3
神戸クリスタルタワー
☎078-371-9583

今年、日韓交正常化四〇周年を迎えたのを記念し、「日韓友情年二〇〇五」として、広い分野にわたり、交流事業が進められております。兵庫県日韓親善協会では、一九七七年発足以来、文化交流活動を通じて、地元の両国の国民の理解と信頼を深める活動を展開してまいりました。

本年は「文化で結ぶ日韓交流の糸」をテーマとして、華道の日韓交流の先頭に立ち、韓国全羅南道の光州ビエンナーレの名誉広報大臣で（財）日本いけばな協会理事・吉田泰巳氏と、嵯峨御流一門の方々による「いけばな展」が開催されました。そして、一九九八年來日以来、丹波に玄齋窯を設立され活躍中の陶芸家・李壽英氏と、二〇年近く日韓現代作家の交流活動を続けておられる洋画家・初田寿氏のお二人の作品の美術交流展を開き、同時に、三人の先生方の講演会、座談会で長年にわたるご努力を伺いました。このように積極的に文化交流活動を進めております。皆様のご参加をお待ちしています。

7月8日「松廻家」にて開かれた学

年会には、先生1名と、同期生47名（関
東から7名）が参加しました。

会場には、恩師お手製の能面と、京
都手描本友禅染作家で日本工芸会会員
である同期生の作品を展示し、貴重な
すばらしい作品に、皆から感嘆の嵐が。
また七夕飾りを作り、全員短冊に願い
事を書き、童心に帰つて『螢』『七夕さ
ま』を合唱しました。歌は続き、以前、

在校生とOGとが一緒に甲子園球場で
新旧大会歌を合唱したとき参加した2

名と、元音楽部員3名のリードで、『歓
喜による歌』や卒業式の歌や、春季

選抜高等学校野球大会・新旧の大会歌『今
ありて』『陽はまいおどる』を合唱。こ

の大会歌は、昭和30年から、甲子園球
場で50年間、親・子・孫3代歌い続け

た我が母校が誇れる行事の一つです。
最後には、校歌を合唱して閉会。二次

会では、60の手習いとヴァイオリンを
習得中の同期生の演奏もあり、久し振

りに会う友との語
らいはとても楽しく、
翌日は雨にも負けず、
修法ヶ原と森林植

物園に出かけました。
2年後の学年会の
再会が、今から待
ち遠しい私たちです。

●ある集い●神戸山手女子高等学校32回生緑会卒業45年記念学年会





上は出田学長のピアノで歌う風さやか。下はパーティ会場を熊本弁で盛り上げる



右より、出田りあ、亀井英一郎、亀井万里江、出田ゆめ、風さやか
の一族音楽ファミリー

火の国くまもと 炎の熱か女ばい！

お帰りなさいトンコさん！

“風さやか”ことトンコさん。
あの底なし究極のパワーは
どこからあふれ出るのだろう
？！？いつも疑問だった。

8月8日。風さやかお里
帰りディナーショーの取材に、
熊本のキャッスルホテル（11
階スカイラウンジ）ロワール
（）へのご招待を受けて、早
朝から新幹線で博多へ。JR
九州レールつばめのハイカラ



熊本水前寺公園にて



「エリザベート」を歌い演じる植ひとみと風さやか



〈熊本出身元タカラジェンヌ〉右より 芦原みか、風、姫由美子、志都美咲



毎週日曜 PM11:00～PM11:30 ラジオ関西 558にて好評ON-AIR

提供/おしゃれは足元から…神戸・三宮 **人情のモリタ** 078-391-9283

な列車で熊本へ着いた。
2007年、築城400年を迎えるにあたり、本丸が修理中だったが、加藤清正公築城の熊本城は、風格あるたずまい。キヤッスルホテルはお城を望み、「愛と夢。永遠のタカラジェンヌ in 火の国くまもと」のディナーショーは、午後6時より始まり、

食事タイムも中途の7時から9時30分まで、風さやかのはつらつとした、ふるさと公演を堪能した。
「阿蘇の噴火は、まるで私の心のように燃えています。
「うちは火の国の女ばい！
この熱つかあ気持ばあ、あんた判つとつとネエー。」



世界のマリンバコンクールで優勝した出田りあさんと



平成音楽大学名誉理事長・出田憲二(中)、理事長・学長・出田敬三(左)

肥後は火の国。人間も熱か
かとこばい！」とトンコさん。
この言葉は、すべてを物語
っている。噴火山のような底
なしエネルギーは熊本生れと
育ちのせいだった。判った判
つたと感動した。

平成音楽大学・理事長・学長の出田敬三さんのピアノで唄つた“愛の讃歌”は最高の歌詞と歌唱力。パッションのあるピアノで学長も肥後のものこすと驚いた。さらに名誉理事長の出田憲二さんの厳格な指導のもとこの音楽ファミリーは誕生したのだと、あらためて音楽教育の大切さを痛感した。(小泉)

利休が遺した武家茶道を受け継ぐ 藪内流・福田龍之介さん(17歳)



七代目龍之介さんのお点前を見守る六代目竹有さん

茶道の流派は
全国に60以上あ
るといわれている。

藪内流は六流派
といわれるもつ

とも古い流派の
ひとつで、千利
休の兄弟弟子で
ある藪内剣伸が

起こした流派になる。また茶道の流派は大きく分けて
武家茶道と町人茶道に分かれる。なかでも藪内流は、
利休の形をもつとも忠実に残している武家茶道として
名高い。特徴としては、「男点前」「武家点前」などと
言われ、着流しではなく袴で茶をたてるところにある。

藪内流六代随竹庵・福田竹有宗匠が毎年クリスマス
時期に開催する「クリスマス茶会」は、年を追うごと
に評判を呼んでいる。もともと茶の湯とキリストンと
の関係は深く、利休七哲と称されるのなかにも、キリ
シタン大名と見られている人物が多数いる。このクリ
スマス茶会は、伴天連大名にちなんだ茶会となつてい
る。かけ離れたイメージの、茶の湯の世界とクリスマ
スだが、このクリスマス茶会ではクリスマスをモチ
フにした色鮮やかな和菓子も登場する。

竹有宗匠は随竹庵七代目となる龍之介さん(17歳)



藪内流六代随竹庵・福田竹有さん

の指導にもあたっている。「茶の心、点て方、ものが見えなければ茶の世界では通用しない。幅広く勉強してほしい」と竹有宗匠は語っている。龍之介さんは、8歳の頃のから稽古をはじめているが、日常生活から挨拶や躰には特に厳しく育てられてきている。龍之介くん本人は、高校ではプラスバンド部に所属し、トロンボーンを担当している。「茶の世界はまだなにもわからない。これからが勉強です」と明るく語る表情からは、袴姿とは裏腹に、今時の高校生の素顔が見られる。



出逢い」だと語る龍之介くんの視線は、日本に止まらず、もっと広く世界に目を向けている。ジャズと茶の湯の融合。七代目が目指すのは、新たな茶の湯の世界かも知れない。

(香雪美術館内・茶室「梅園」にて)



高校生とは思えない、落ち着いたお点前を披露する龍之介さん

「マハニム母子寮」に愛を…。

バンガラデシュに生きる怪傑僧
福井宗芳師

文／今村隆 （元NHKディレクター）

福井宗芳師は年に一度バン
グラデシュから帰つてくる。

バンガラの仏教復活と100

人の子供を育てている「マハ
ニ母子寮」の運営に渾身の
力を振り絞つており、日本で
の理解と運営費の協力を願つ
てのことだ。

バンガラデシュってどんな
国や？ インドの東隣り。四国
と九州を合わせたほどの狭さ

に1億3千万人がひしめき合
い、ガンジス川とスマトラ
川の大河でできたデルタ地

帯が国土であるため、常に氾
濫に悩まされ、ひどいときに
は国土の3分の2が水没する。

氾濫のため川の流れが毎年変
わり「私の土地は今は川底」

という土地なし農民は人口の
6割に達するのではないかと
言われる。

イスラム教の爆発的な人口
増加により、イスラム88%と
圧倒的に多く、ヒンドゥー教
は10%そこそこ。仏教徒は
0・6%で、キリスト教0・3
%とともに極端な少数派にな
っている。もちろん国教はイ
スラム教である。

戦争による疲弊、土地なし
農民、少数宗教であるための
迫害。こうした実情を打開す

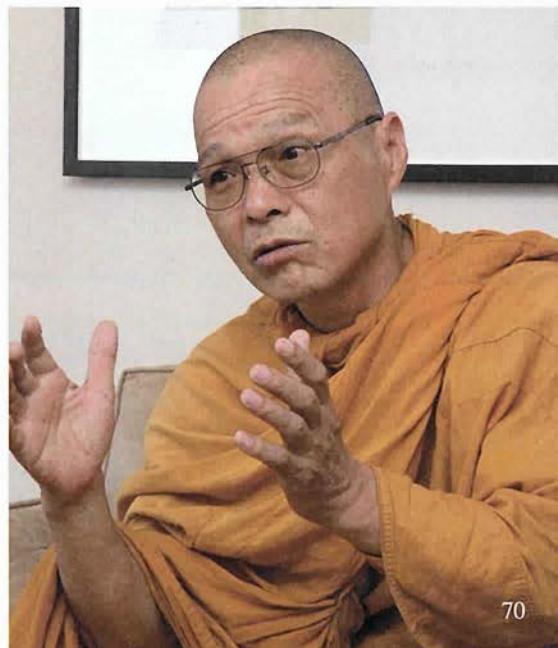
るため、先達の日本山妙法寺
の僧侶・渡辺天城師が、バン
グラ第二の都市チタゴンの近

郊マハムニ村に1976年
に築いたのが「マハムニ母子

寮」であった。

20数年前、ひょっこりと、
このマハニム母子寮に入り込
み、渡辺師の手伝いを始めた
のが福井さんだつた。なぜか
福井さんは黙々とこの土地に
人生を打ち込み、いつの間に
か京都で臨済宗を修行、タイ
で南方仏教僧として再得度。
本腰を据えた。2002年渡
辺師がバンガラの土に還ると、
その遺志を継ぎ、孤軍奮闘し
てゐる。

福井さんは満州で生まれた。
その広漠たる大地は福井さ
んのDNAとなり、狭い（い
ろんな意味で）日本での生き
方に飽き足らず、荒涼たる大
地のバンガラに立つて初めて





▲ 渡辺天城師像

DNAのいらだちを鎮め満足させたのではないか。福井さんの行動の原点はここに在るとしている。マハムニ母子寮（今は子供のみ）には100人近い6歳から16歳までの子供と15人のスタッフがいる。子供はここで仏教の教えを受け生活をしながら、小1～5年、中6～10年の学校に通っている。中学を出ると全国一斉の国家試験をパスさせ、”立派な社会人”として世に送り出すことが目標だと言う。

驚いてはいけない。スタッフの人物費・全員の教育費・衣食住費一切を含めて1ヶ月20000ドル（約20万円）でまかなつている。1日7200円である。1人1日80円で済む。えーとそんなんができるの!?って言わないで。そのほとんどが福井さんの努力と日本の有志の善意で成り立っている。20万円あれば、マハムニ母子寮が1ヶ月運営できるわけだ。それなら”貧者の一灯”で、来年福井宗芳と思つていい。

ばかばかと、いいお天気です。

ここは、元町商店街の中にある元町滝公園です。小さな精霊トワイインクルは、この静かに滝が流れる公園で、お昼寝をしていました。

藤原 健二

T&B

～トワイインクルとビッグ～

第十三話
すてきな夢

元町滝公園～D511072

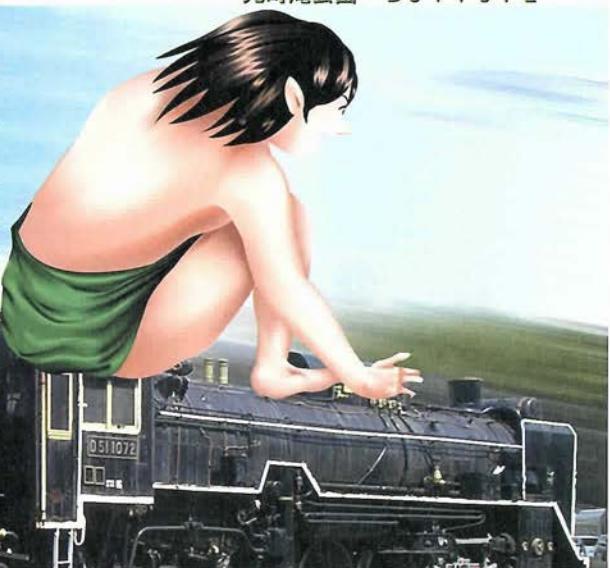


トワイインクルは、夢を見ていました。それは、大きな精霊ビッグと機関車に乗る夢です。ビッグは、いつもトワイインクルがお散歩しているとき、必ず邪魔をしにくる、いたずら好きの精霊です。

しかし、夢の中のビッグは、トワイインクルにとても優しく、一緒に仲良く

汽車に乗っていました。そんなビッグと一緒に汽車に乗るトワイインクルは、

とても幸せそうでした。



「あれ？」

私が覚めたトゥインクルは、なんと夢で見た汽車の上にいたのです。じつは、これはJR神戸駅前に保存されている機関車、D51 1072だったのです。

「あっ！ きっと、またビッグがいたずらで、わたしをこんなとこに移動させたんやな、まつたく・・・」

なにやら、文句を言っていたトゥインクルでしたが、すてきな夢を見れたのも、ビッグがここにつれてきたからだと思い、とてもうれしそうでした。

「ありがと・・・」



D51-1072は昭和19年に誕生して北海道で大活躍した機関車やのに今はなんか汚れちゃってかわいそうやな・・・